



News Letter

No.4 2008.7 発行

contents

- 部門長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 多様化する産学連携～地域が求める大学とは・2
- センター活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 平成19年度共同研究受入・技術相談件数・・・・6
- スタッフ・客員教授紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 地域医学共同研究部門運営委員会委員・・・・・・6



部門長挨拶

産学連携センター地域医学共同研究部門長 森田 栄伸



平素より産学連携センターの運営にご協力を賜り誠にありがとうございます。
平成19年10月より木下教授の後任として産学連携センター地域医学共同研究部門長を拝命いたしました。

島根県は高齢化が最も深刻な県のひとつですが、その背景には少子化と平均寿命の延長もさることながら、県内の産業が少なく、若者が就職先を求めて県外へ流出することも大きな要因と思われます。こうしたなか島根大学は「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」との理念のもとに地域社会への貢献を重視しています。産学連携センターは地元産業育成への貢献という大きな使命を担っていると思われます。地域医学共同研究部門は医学部各講座や附属病院診療部が保有している研究シーズの掘り起こし、それをもとに地元産業との共同研究を進め、新規事業につながるような場を提供できればと考えています。皆様のご尽力、ご助力をお願いいたします。

多様化する産学連携 - 地域が求める大学とは

産学連携センター地域医学共同研究部門 教授 中村 守彦



大学の新たなミッションとして位置づけられ、馴染みの薄い教職員にとっては特別な響きすら感じられた「産学連携」は各大学において定着しました。島根大学も産学連携の成果によって実用化を遂げ、地域社会に生かされている成功事例は少なくありません。

産学連携は黎明期を終えて成長期に入り、社会事情の変遷とともに、また地域によってその役割は大きく変わっていくことでしょう。2050年には島根県の人口が約半分の40万人程度に減少すると予想されています。隣県の鳥取と合わせて80万人に満たなくなる山陰地方において、大学の姿が大きく様変わりしていることは想像に難くありません。今こそ長期的な視野に立った大学の使命を、産学連携の立場から果たしたいと考えています。

大学単独では実用化が困難な開発研究を産学連携は可能にします。基礎研究が応用研究へと発展して大学シーズが活用されることで、科学研究の成果は地域社会に受け入れられます。研究論文を読み解くには高度な専門的知識が要求され、基礎研究の段階で一般市民がその内容（成果）を理解するのはとても困難です。大学の研究成果を、理解し易い形態で学外に発信する努力が必要です。

さて、産学連携センターは医学研究を中心として、産学協同により実現した医療機器等について地元の高校生を対象にフィールド学習を実施しています。この体験を通して生徒達は、科学研究の無限の可能性を肌で感じます。そして、独立した教科として日々、学んでいる生物・物理・化学・数学、全ての要素が集積した実例を体験し、それぞれを生きた学問として認識します。本来の産学連携業務を発展させた高大連携は、我が国で大きな課題となっている理科教育向上のモデルとなり、地域医療に携わる人材養成という観点からも学外から高い評価を受けています。以上については、本ニュースレターでも紹介しています。

遠い先を見据え、地域性を生かした継続的な独自の取り組みにより地域社会が元気になり、次の世代に夢と希望を与えることのできる地方大学こそ、その存在価値が認められて存続を要望されるのでしょうか。

センター活動報告

出雲高校フィールド学習教育

日時：平成19年10月12日

対象：理数科1年生 40名

講義内容：産学連携センター 教授 中村守彦

- ・島根大学共同研究の紹介

- ・機能性食品開発

皮膚科 教授 森田栄伸

- ・アレルギーについて

- ・調湿木炭と電解水洗濯機の効能について

整形外科 教授 内尾祐司

准教授 森隆治

- ・骨ネジ加工による再生医療

医療情報部 准教授 花田英輔

- ・双方向通信ロボットによる遠隔地医療補助

今回の体験学習には、医学部と共同研究している地元企業（出雲土建・山陰電工）も参加し、生徒からの活発な質問に対応しました。体験実習を終えた生徒たちは「普通の講義だと思って参加したが、実際に様々な分野の体験ができてとても有意義だった」「同じ出雲市で最先端の医学研究が進んでいることに驚いた」「今後の進路を決める上で大変参考になった」など感想を述べました。



アレルギーについての講義



骨加工の実演

イノベーションジャパン2007

日 時：平成19年9月12日～14日
場 所：東京国際フォーラム
開 催：主催 科学技術振興機構，NEDO技術開発機構
共催 文部科学省，経済産業省，内閣府，日経B P社



展示風景

産学連携セミナー

第1回『木炭と住環境を考える』

日 時：平成19年10月21日
場 所：医学部看護学科棟
開 催：共催 産学連携センター，出雲土建（株）
講 演：「小児気管支ぜん息患者における調湿木炭の効果検討」
医学部附属病院輸血部 講師 竹谷健
「産学共同研究から見た健康と住環境」
出雲土建（株）代表取締役 石飛裕司

第2回『健康と住環境を考える』

日 時：平成20年3月16日
場 所：<出雲>ラピタウェディングパレス
<松江>くにびきメッセ
開 催：共催 産学連携センター，出雲土建（株）
講 演：「アトピー性皮膚炎・その原因と改善方法」
医学部皮膚科学 教授 森田栄伸
「木炭敷設による床下環境の改善」
総合理工学部 准教授 中井毅尚
「産学共同研究から学んだ健康と住環境」
出雲土建（株）代表取締役 石飛裕司



講演風景

平成19年度 特許セミナー

日 時：平成19年11月17日
場 所：産学連携センター地域医学共同研究部門
4階 会議室
講 師：（社）発明協会広島県支部 参与 坂本重道氏
三枝国際特許事務所 弁理士 中野睦子氏
参加者：15名（本学教職員，大学院生等）



セミナー風景

平成19年度 島根県理数科教育研究大会研修会

日 時：平成19年11月27日
場 所：産学連携センター地域医学共同研究部門
4階 会議室
講 師：産学連携センター地域医学共同研究部門
教授 中村守彦
参加者：15名

産学連携による共同研究の成果を体験することで実践的な科学を学び，理科教育の向上を目指します。



研修風景

産学官連携コーディネーター中国四国地区会議

日 時：平成19年11月28日，29日
場 所：産学連携センター地域医学共同研究部門
4階 会議室

産学官連携コーディネーター間の情報共有，相互連携と，地域の産学官連携に関わる方との連携を促進する目的で開催されました。



会議風景

鳥取・島根発 新技術説明会

日 時：平成19年12月7日
場 所：科学技術振興機構JSTホール（東京 市ヶ谷）
主 催：鳥根大学，鳥取大学，島根県産業技術センター，
鳥取県産業技術センター，科学技術振興機構

鳥根大学、鳥取大学、島根県産業技術センター、鳥取県産業技術センターと共同で大学等の研究シーズを関東エリアの企業を対象に紹介しました。



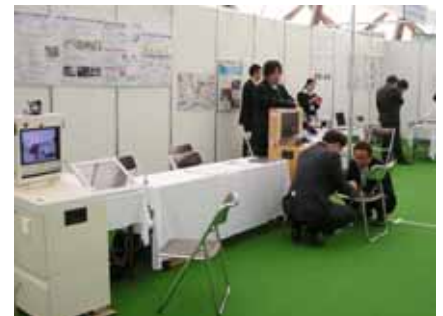
鳥根大学研究シーズの説明風景

21世紀出雲産業見本市2007

日 時：平成19年11月10日，11日
場 所：出雲ドーム
開 催：主催 出雲市

後援 鳥根大学産学連携センター 他

出 展：「環境抗原における調湿木炭の敷設効果」皮膚科
「小児気管支喘息患者における調湿木炭の効果の検討」小児科
「乳製品中の神経再生機能物質の探索」環境生理学
「膝のグラグラ検査器と装具」整形外科
「エージェント型マルチメディア通信システム『ミュー太』」医療情報部
「実験動物による健康食品の機能性と安全性の評価」実験動物分野
「高大連携（産学連携による研究成果の紹介）」産学連携センター地域医学共同研究部門



展示風景

次世代医療セミナー ～鳥根大学医学部の最新研究の紹介～

日 時：平成19年11月10日
場 所：出雲健康公園（出雲ドーム）健康センター
主 催：出雲市，NPO法人21世紀出雲産業支援センター
講 師：「医療機器を正しく動かすための電磁環境について」
医学部附属病院医療情報部 准教授 花田英輔
「今求められる医療関連ビジネスについて」
医学部整形外科 准教授 森隆治

北テキサス大学Dr, Neogi 准教授と学生 3 名が来訪

日 時：平成 20 年 5 月 27 日

国際共同研究先の北テキサス大学 Dr. Neogi 准教授と学生 3 名が当センターを訪問しました。学生は島根大学（松江キャンパス・出雲キャンパス）でナノメディシン研究の基礎実験を 2 ヶ月間の予定で行います。



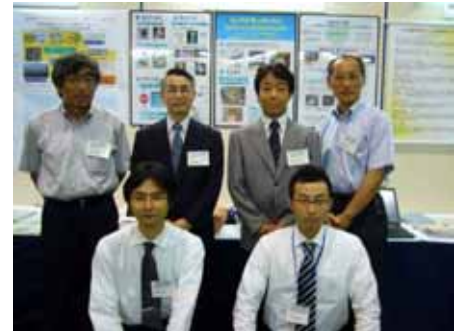
重点研究プロジェクトメンバーによる歓迎会の模様

第 7 回 産学官連携推進会議

日 時：平成 20 年 6 月 14 日、15 日

場 所：国立京都国際会館

ブース展示では、重点的に行われている研究プロジェクト「S-匠ナノメディシン」の研究活動について紹介しました。また、産学連携学会主催のワークショップで、「地域医療の向上を目指した新しい試み」と題し、地元企業との共同研究の成果や高大連携など、産学が連携し、地域の医師不足の解決に向けて取り組んでいる事例を紹介しました。



展示会場にて

益田高校フィールド学習教育

日 時：平成 20 年 7 月 4 日

対 象：1 年生（理数科含む）29 名

講義内容：産学連携センター 教授 中村守彦

- ・施設案内
- ・ナノメディシン

整形外科 准教授 森隆治

- ・骨ネジ加工による再生医療

医療情報部 准教授 花田英輔

- ・双方向通信ロボットによる遠隔地医療補助

益田を朝 7 時に出発して、午後 4 時に実習を終えたら益田に帰るスケジュールでしたが、「出雲に来た甲斐があった」「科学に益々、興味がわいた」など好評でした。



益田高校生徒と記念撮影

北テキサス大学の大学院生が国際共同研究を開始

日 時：平成 20 年 7 月 14 日～18 日

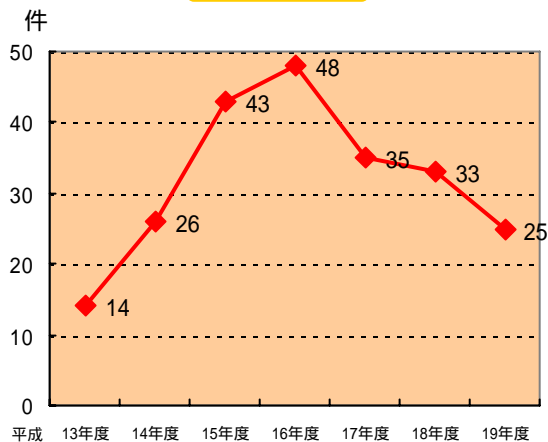
北テキサス大学の学生（PhD コース）が国際共同研究の一環で地域医学共同研究部門を訪れ、酸化亜鉛とハイドロゲルの基礎実験を行いました。帰国後も共同研究は継続されます。



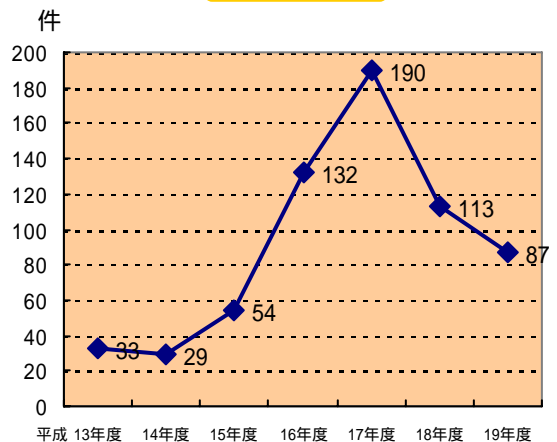
研究風景

平成19年度共同研究受入・技術相談件数（出雲キャンパス）

共同研究



技術相談



スタッフ・客員教授紹介

《部門長》	森田 栄伸（皮膚科学教授・兼任）
《教授》	中村 守彦
《産学官連携コーディネーター》	宮崎 稔
《事務補佐員》	山崎 享子
《技能補佐員》	岡田 詠子
《プロジェクト研究推進機構 研究員》	下崎 俊介
《客員教授》	中野 睦子（三枝国際特許事務所 弁理士）

地域医学共同研究部門運営委員会委員

《部門長》	皮膚科学	教授	森田 栄伸
	地域医学共同研究部門	教授	中村 守彦
《産学連携コアメンバー》	病態病理学	教授	並河 徹
	公衆衛生学	教授	藤田 委由
	内科学第三	教授	山口 修平
	小児科学	教授	山口 清次
	整形外科学	教授	内尾 祐司
	地域看護学	教授	中谷 久恵
	医療情報部	准教授	花田 英輔

News Letter NO.4 2008年7月発行

島根大学産学連携センター地域医学共同研究部門 〒693-8501島根県出雲市塩冶町223-8
TEL 0853-20-2912 FAX 0853-20-2913 E-mail cmrc@med.shimane-u.ac.jp